

かささぎ



北京日本人学校
学校通信 第8号
令和元年12月19日
校長 栗本 和明

わたしは常日頃、子どもたちに「北京日本人学校は世界で一番の学校です」と話しています。職員室でも「子どもたちや保護者に自信をもって『世界で一番』と言える学校にしましょう」と教職員に声をかけ、叱咤激励(?)しています。「北京日本人学校でしか体験できないこと」は、世界一の学校への道筋のひとつです。本年度も1学期2学期と、はや9か月が過ぎましたが、この間に「北京ならでは」という国際交流活動で、いくつかの新しい挑戦を行ってきました。

中学部 月壇中との交流では

1 これまで、毎年、本校教師が月壇中に出向いて出張授業を行ってきましたが、本年度初めて月壇中の教師が本校で特別授業を行いました。数学科と理科(物理分野)の中国語による(日本語同時通訳あり)授業に、本校生徒は集中力を発揮し、緊張感を持続させて取り組みました。「教室内に燻蒸薬剤が充満する時間」という中国らしい問題設定や、本校にはない静電気実験装置での目の前での実験など、新たな学びの場となりました。数十年の長きにわたる両校の交流に、新しい一步を踏み出す取り組みだと思えます。

小学部では

- 2 2年生と、本校「おむかい」の3eインターナショナル幼稚園との交流を復活させました。本校が4月から下校時刻を変更したことで発生する下校時の正門前の交通渋滞(3e幼稚園の自動車お迎え時間との重なり)の解消に向け、校長が3eに出向き園長と対応を話し合った折、双方の学校・園が同じニーズ(互いの子どもたちの交流の場を設けたい)をもっていることを共有、話が一気に具体化しました。国内では低学年が地域の幼稚園との交流を行いますが、3e幼稚園との交流はその要素にさらに「国際性」という要素が加わる充実した活動となりました。
- 3 北京市内にある中国のインターナショナルスクール、君誠国際学校の校長より「日本の教育の素晴らしさを、本校の(君誠国際学校の)子どもたちにも体験させたい」と申し出がありました。具体的には、日本の学校で当たり前に行われている「子ども自身による清掃活動」や「礼儀正しく仲良く食べる昼食」「公共マナーが行き届いた(教室内でも)日常の行動」などを学ばせたい、とのことでした。早速計画を具体的に進め、1・2年児童の交流を本年度中に実現させることができました。本校にとって新しい交流活動のスタートとなりました。

上記国際交流活動以外にも、本年度新しく挑戦し実現したことがいくつもあります。

- 4 3学期に小学部3年生と4年生が社会科の学習で、北京市の消防署に見学に行けることになりました。日本では当たり前に行われている消防署見学ですが、北京で実現させることは大変困難です。日本では水道・ごみ処理・消防は市町村などが行いますが、中国では消防は「武警部隊の一部」であるためです。子どもの見学を受け入れることなど通常考えられない状況でした。校長は昨年度着任以来本校中国人事務スタッフを叱咤激励(?)し、崔事務長の粘り強い交渉で実現することができました。事前学習をしっかりと行い、国内以上の学習成果をあげたいと準備しています。
- 5 福原愛さんの特別授業を行いました。福原愛さん本人の「日本人学校の子どもたちに思いを伝えたい」という希望はもちろんですが、多くの関係者の皆さんのおかげで実現しました。「1日に1cmの成長があれば1年で365cmになる」「昨日できなかったことが今日できるかもしれない」など、トップアスリートから珠玉の言葉をいただきました。

「北京日本人学校で過ごせて良かった。この学校で学べて良かった」と子どもたちが感じ、「わが子を北京日本人学校に通わせて良かった」と保護者が思う、そんな学校「世界一の学校」を目指し、職員がワンチームとなって今後も日々努力工夫していきます。

「令和」という新しい元号が始まった今年は、中華人民共和国創立70周年の年でもありました。中国の人たちの愛国心を間近に見たり感じたりすることができました。日本では相次ぐ災害が発生、多くの人たちが今日現在も大変な状況にあります。遠く離れた北京に暮らしながら、そんな日本のことを、子どもたちと共に考える師走を過ごしたいと思えます。

校長 栗本和明

学習発表会を終えて 小学部

先日行われた小学部学習発表会。たくさんの方に来ていただき、本当にありがとうございました。どの学年も練習以上の力を出すことができました。子どもたちの演技はいかがでしたか。子どもたちは『見られる』ことで緊張もしますが、いつも以上に力を発揮できることもあるんですね。保護者の皆さまには、できあがった劇や合奏、発表を見ていただき



ました。しかし、実は一番楽しいのは劇の練習の時なんです。はずかしくて声がでなかった子が日に日に出るようになってきたり、歌がだんだん上手になってきたり、合奏が合うようになってきたり…できなかつたことができるようになる。これを見られるときが一番楽しいです。学習発表会は、それまでに多くの失敗や子どもたちの小さな努力の積み重ねがあったから成功したのだと思います。

アントレプレナーシップ教育

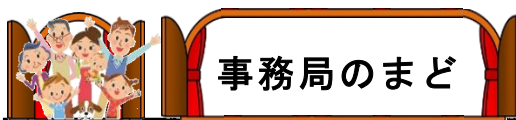
中学部 2 年生

中学部 2 年生は総合的な学習の時間で「アントレプレナーシップ教育（起業家教育）」に取り組んできました。1 学期にはキャノン中国に出向き生徒が企業に新しいアイデアを提案するプレゼンテーションを、そして2 学期は秋まつりでお店を出し販売体験を行いました。まずは「ニーズ調査（秋まつりに来る客は何を求めているだろう？）」「ターゲット明確化（どの年代をターゲットにする？）」「企画・開発（サービス内容やオリジナル商品の開発！）」そして「販売」「フィードバック（参観日に模擬出店し反省点を本番に生かす）」という一連の流れの中で、起業体験をしました。秋まつり当日には多くの方にお店に来ていただき、サービスを楽しんでいただきました。



日頃何気なく親からもらったお金でお菓子などを買っていた僕は、今までお金の価値観が分かっていませんでした。しかし、今回秋まつりに出店し、「お金を稼ぐ苦勞」についてよく知ることができました。普段働いている自分の親などを考えてみると、とても尊敬します。（生徒の感想より）

お越しいただいた皆様、本当にありがとうございました。秋まつりの収益は、学校全体のために活用していくべく生徒と一緒に考えていきます。中学部 2 年生のアントレプレナーシップについてはホームページ（QRコードより）で詳しく紹介しています。是非ご覧ください。



事務局のまど



12 月 3 日、鑑賞教室を開催しました。毎年、外部の専門家に体育館ステージでのパフォーマンスをお願いしているもので、今年はこれまでとは目先を変えて中国民族音楽のグループを招聘しました。曲目選定、楽器体験の詳細、プログラムの確認、そして当日にはマイクの微妙な調整など、先生方の努力により、北京らしい、でも内容は日本以上に充実したイベントが実現できたと思います。演奏を聴いた子供たちが、中国のまた違う一面に興味をもつきっかけになれば幸いです。事務局としても教育活動をしっかりバックアップしていきます。（事務局長 倉片）

ただいま何人？

小学部			令和元年12月19日現在				
	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1-1	9	10	19	4-1	10	11	21
1-2	9	11	20	4-2	9	11	20
1-3	9	9	18	5-1	15	11	26
2-1	11	10	21	5-2	15	12	27
2-2	11	9	20	6-1	9	8	17
3-1	8	12	20	6-2	10	8	18
3-2	9	12	21	小総計	134	134	268
中学部							
1-1	8	7	15	3-1	14	8	22
1-2	8	8	16	中総計	38	35	73
2-1	8	12	20	総合計	172	169	341